

M臨 29-1

2025年度 大学院入学試験問題【I期】

文学研究科 臨床人間学専攻（臨床心理学専修）博士前期課程

科目：論文・専門科目（辞書使用＝不可）〔3問必答。解答用紙は1問につき1枚を使用し、【Ⅲ】は問題番号を明記すること。〕

◎【I】から【Ⅲ】の問題のすべてに解答しなさい。なお、解答用紙は1問につき1枚（問題【Ⅲ】は2枚）を使用しなさい。

【I】2024年1月の能登半島地震のように、日本では度々こうした大きな災害により多くの人が被災する事態が起きています。こうした被害に関する心理的支援について、以下の問いに答えなさい。

〔設問1〕このような事態に対する心理的社会的な支援として、「サイコロジカルファーストエイド」があります。サイコロジカルファーストエイドとは何か600字～800字以内で説明しなさい。実践に当たっての要点についても含むこと。

〔設問2〕災害をはじめとした様々な被害体験によって生じる、PTSDや心的外傷（トラウマ）に対する、有効性が確認された心理支援・カウンセリング・心理療法などについて、名称と方法を説明しなさい。

【Ⅱ】以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

A男さんは24歳。東京の私立大経営学部を卒業後、一部上場企業（電子機器メーカー）に事務職として採用された。元来陽気で人前に立って活動することが好きであり、宴会幹事なども積極的に引き受けていた。独身の一人暮らし。勤務2年目となり、上司が子会社との契約関係の業務を任せてみたところ、数か月後にA男さんが子会社社員に対して横柄な態度で接していることが判明した。上司のBさん（45歳）がその件を正し注意したところ、以降本人はBさんを無視するようになった。

その後も働きぶり自体はそれなりに評価はされるものの、相変わらず子会社社員に対する横柄な態度は続き、周囲はその対応に困り果てていた。Bさんからの再三の注意にも口答えをして周囲を巻き込むトラブルに発展し、報告を受けた人事担当者より改善指導を受けた翌日から、本人は出社をしなくなった。

無断欠勤が3日間続き、別の上司Cさん（51歳）がアパートを訪ねたところ、「不眠と食欲不振が続いている」「Bのいじめが原因で出社できなくなった」「朝から憂鬱で元気が出ないが、これってうつ症状ですね？」と述べたという。2週間後に心療内科発行の『抑うつ状態』を診断名とする診断書が人事課に送付されてきたが、その内容は「服薬と3か月間の休養を要する」というものであった。一方、その休職期間中に同期の職員などから「休み始めてここ一か月ほどはすこぶる元気そうです」「夜は合コンでよく飲みに行っているみたい」「海外旅行を楽しむ写真がSNS上にアップされている」などの情報が人事課まで伝わってきた。

〔設問1〕「メランコリー型性格」などのように『従来型うつ』とは異なった背景を持つ新しいタイプのうつに関する報告例が近年増えている。あなたの知る新しいタイプのうつに関する特徴を述べなさい。

〔設問2〕あなたが嘱託カウンセラーとして、その後A男さんと面談することになったと仮定する。産業医と連携しながら「A男さん」「上司」「人事課」などに対する対応を、現段階で想定して述べなさい。

【Ⅲ】以下の用語について、（1）から（8）までのうち5つを選択して、簡潔に説明しなさい（150～200字以内）。解答する際は、どの問題を選択したかがわかるように、問題の番号を明示しなさい。

- (1) カナー, L. (Kanner, L.)
- (2) 親密性 vs 孤立 (E.H.Erikson)
- (3) 共感性疲労
- (4) Employee Assistance Program (EAP)
- (5) ソーシャルサポートのストレス緩和効果
- (6) 流動性知能と結晶性知能の違い
- (7) カウンセリングとコンサルテーションの違い
- (8) 分散説明率（決定係数）